

## 第20回「県政ひざづめ談議」概要

開催日時：平成20年2月16日 14：00～

開催場所：蕪崎市商工会

[ 司会 ]

本日はお忙しいところをお集まりいただきましてありがとうございます。ただいまから、知事対話『県政ひざづめ談議』を始めさせていただきます。

本日の進行役を務めさせていただきます県の広聴広報課長、田中でございます。よろしくお願いたします。

それでは始めに横内知事からあいさつをお願いします。

[ 知事 ]

どうも皆さんこんにちは。

今日は土曜日のお休みのところをこうしてお集まりをいただきまして本当にありがとうございました。日頃県政の推進ももちろんでありますけれども、私自身に対しても大変にご厄介になっておりまして、心から厚く御礼を申し上げます。

まあこうして名簿を拝見いたしましても、蕪崎市という市は本当にきらりと光るようないい企業がたくさんある市であり、本当に産業都市だなという感じがするわけであります。厳しい情勢ではありますけれども、将来の可能性のある企業が揃っているわけでございます。是非県政においてもそういった皆様方の社業の発展のために応援をさせていただきたいというふうに思っております。そんなことを今日は色々とざっくばらんな、忌憚のない意見交換をさせていただきたいというふうに思います。

どうも今日はありがとうございました。

[ 司会 ]

本日出席しております県と市の担当者を紹介させていただきます。

県の商工労働部で、中小企業団体の指導育成、経営革新の支援、それから企業立地などによりまして製造業等の企業の支援をしておりますけれども、本日は3人出席しております。

まず中村商工総務課長でございます。

次に清水工業振興課長です。

それから中込産業立地推進課長であります。

それから市の高添商工観光課長であります。

本日は蕪崎市内で製造業関係の企業を運営されている方、また今後それぞれの企業の中心で活躍される、活躍することを期待されている皆様と『企業の活性化を進めるためには』をテーマに意見交換を行いたいと思います。

暮らしやすさ日本一の県づくりを進めていくためには本県産業の活性化が不可欠であります。このため本県に集積する機械電子工業、それから地場中小企業の技術力の向上、それから製品開発、受注機会の拡大、また将来性のある優良な企業の誘致などを推進してい

くためにどういうことをすればよいか。それからそのために何が必要かと、そういうような観点で話し合いを進めていきたいと思えます。是非活発なご意見をお願いいたします。それではお願いいたします。

[ 参加者 ]

皆さん方のお手元に資料を配布させていただきましたけども、実は昨年9月に東洋経済で発表されました蕪崎市の総合経済成長力というんですか、これが相当にですね、特に産業資本が全国805都市の中で第6位という位置付けなんです。これは企業の皆さんが非常にがんばってくれているという証だなと思うんです。

そして今蕪崎市に企業が来てもらうにはどうすればいいかということ、まあ自分なりに考えました。

というのは今県のほうでも中央道のインターの拡幅が近々仕上がって、そして中央道の下のほうがちょうど穂坂橋を渡った右側の斜面が非常に傾斜地帯でありますけど、そこに今、市でも県でも住宅の分譲地がないんですね。

今、蕪崎市に働きに来てくれる方々が毎日9,200人です。そして蕪崎市から市外に出ている人たちが6,500人だと言われてます。約2,500から3,000名が毎日蕪崎市に働きに来ているんですね。というのはお家を借りている方もいらっしゃるし、それから自分の家から通っている方もいらっしゃると思えますけど、でもどこかに住宅を求めたいという方もたくさんいると思うんですね。そして企業が来て家もすぐ建てられるとか、あそこだと富士見モールとか、それから今度の駅前のカタクラの跡地の開発とか、蕪崎高校に近いとか、インターに近いとか、駅に近いとか、非常に立地的には恵まれている所なんですよ。ああいった所を是非県と市で力を入れて開発していただきたいなということがまず1点。

それから企業立地支援条例というのがございますね。蕪崎市もそうでありますけれども、1億円以上の投資と、それから15名以上の企業と、それから年間に10名以上新規採用で、そのうち市内が3名というふうな条件付き。でもクリアするのがすごく難しいんですよ。県のほうに聞きましたら5億円以上の確が設備投資というふうに聞いております。でも企業が来てもらうにはもう少しハードルを落として、5名でも10名でもやっぱり山梨県あるいは地元企業を誘致したいということ、是非またそういうことも議会の中でも議論の中で話をしてもらえばありがたいなと思えます。よろしくお願いたします。

[ 知事 ]

そうですね、確かに住宅地の開発というのは、それは需要はあると思うんですよ。蕪崎の市内にそういう場所があればと思えますけれども、今はもう県の住宅供給公社も大赤字でね。これ以上やるといふあれはないし、市もまた中々そこまでやるといふこともできないでしょうから、民間のいいところがやってくればね、不動産業者が、開発業者が、やってくればありがたいですよ。

そうすれば、色々な農転の問題だとか、そういう問題にはバックアップすることはできると思えますよ。小さい開発なんか、質の悪い開発が行われるとうまくはないと思

うんだけど、ある程度まとまったいい開発が行われれば民間の宅地開発でもいいんじゃないかという気はしますよね。

奨励金は確かに5億円、新規採用10人ということになっているわけです。ちょっと高いなという感じはあるんですけども、来年度は対象の範囲を広げましてね、この5億円10人というやつはそのままにしておいて、今までは外から中に来た人しかだめだったんですけども、県内にある、ここにも皆さんみんなそうですけれども、県内にある企業がさらに工場を増設をすると、これもOKということにしたんです。

それから今度はいわゆる情報通信産業とか、あるいは農業型の企業、工場型農業ですね、というようなものもいいじゃないかということにしてある。そういうふうに対象を広げたんですね。

しかし次は、じゃあ5億円10人というのはいいのかと。もうちょっと小さくてもいいんじゃないかと、そういう議論はあると思います。

とりあえずはそうやって対象を広げた、したがって皆様方がお作りになる時も対象になると、こういうことなんですよね。

今までは皆さん方がやったらだめだったんですか？

[ 産業立地推進課長 ]

元々この制度、平成16年度に創設されたんですけども、山梨県の中央自動車道の開通に合わせて県が主体となって工業団地に比較的内需型の煙突の少ないような企業を誘致したんですが、その後ずっと新たに工業団地を増設しないままここまで来ました。いったんバブルが崩壊した後、一斉に各県が助成金制度というのを手をつけ、山梨県の制度は東京を除けばちょうど中位、山梨と同じような内容で上限枠を持っているのが13県ございます。

そういう中で、元々、製造業で狙いとすれば山梨県経済の波及効果の高い大手を狙ったところ、この設備投資額が土地代を除いた5億円という仕組みになってしまったということで、今知事がおっしゃった部分でさらにそれを使いやすい制度に変えて間もなく発表する予定です。

後それ以外の部分は個別には私の隣にいます工業振興課長等がいますから、中小企業の助成制度などでいろんなものを増やすことによってお応えできる部分も少しはあるのかなというふうに考えますので、是非またご理解いただければありがたいです。

[ 知事 ]

皆さんいずれも優良企業で立地の可能性というのはありますよね。

5億円、10人以上ですから、よく頭に入れておいて下さい。

[ 参加者 ]

先ほど出ました人口の減少について、一昨日県のほうからも発表されましたが、山梨では甲斐市と昭和町と、4市町村ほど人口が増えていて、あとは全部人口の減少。

それはまあ仕方がないと言えば仕方がないんですが、韮崎はいたって段々と、まあ一応並にはなっているんですけど、これをもっともっと4年、5年と言えば減少するのが目

に見えているんですよ。それで、20年後の萑崎、この近辺はどうなるかということがちょっと一つ私も危惧するところがあります。

そしてあとは私も全国をあっちこっち回っているんですけど、そこで福岡で100円のバス、100円の乗り合いバスというのを見たんですね。その区間だけを100円だということで、それを利用して観光地とかに行くというのがありました。

私も県のほうとか市町村で山梨交通とか富士急行さんの広域バスに負担金を出していると思いますが、それがどのぐらいの金額か私は知りませんが、なるべく例えば山梨県だったら甲府の県庁を、駅を中心としたら西のブロックとか東のブロックとか北のブロックとか、こういうブロックに分けてその100円で回れるバスをうまく使う方法が何かないか。その大型バスでなくて、28人乗りのバスでぐるぐるぐる回して、それをパスカードと同じで先に3千円とか5千円とか県民の人に、利用者を買ってもらって、それをどこのバスでも、区間でも利用できるようにして、そうすると年寄りとか通勤のCO2を減らそうという、そういう環境問題とか、色々燃料の話も出ていますけど。

それからパークアンドライドとかやっていましたね、3年、4年ぐらい前に。あの成果というのがどういう成果になったのか、そういうことが可能かどうかですね。

皆さんが利用できる、交通渋滞をなくすというようなことが何かできないかなと私は思って、それで人口の定着というのを増やしてもらおう一つの手かなと思います。

#### [ 知事 ]

県がバス会社には、年間1億2千万プラス6千万かな、幹線バス路線、それから支線のバス路線があって、まあそういうものは赤字なもんだから一定の計算方法で1億2千万にプラス、さらに6千万あったかな、ぐらい出しているんですよ。かなりでかいものを出しているんです。そうやって何とか路線を維持しているわけですけどね。だけど空ということがあるから困るよね。

だけど一方においてやっぱり今おっしゃったような地球温暖化対策とか、そういうことからやっぱりもっと公共交通機関をやるべきだと、こういう話があって、それは全くそのとおりだと思うんですが、中々これはうまくいかんですよ。みんなそういうことを言う人がまたマイカーに乗っちゃっているからね(笑い)。ここが難しいですね。

確かに社長おっしゃるように、もうちょっとバス路線をもっと便利にしてやったらどうだという議論はあるんですよ、確かにね。100円乗り合いバスというのは、今度は市町村がそれとはまた別にコミュニティーバスというやつをやっているよね、ワンコインバスなんていってやっている所がありますね。

まあ100円で、あるいはただでやっている所ももちろんあるし、そういうことのネットワークをしていくということはあるんですよ。

パークアンドライドもやったけれども、結局大したことはなかったということなんですよ。

いずれにしても公共交通機関をもっと使いやすくすべきだということはあるんですよ。これをもう一回、路線みたいなものを整理をして、というのはそれぞれの市町村も合併をしたから、今までの市町村の中のバスのネットワークももう一回考え直さなきゃいかん時期に来ているんですよ。

そういうことも含めて、バス路線をもう一回考え直さないかんとすることはそのとおりなんです、確かにね。それはまあ来年度1年間考えていこうと思っているんですね。

[参加者]

私はエレクトロンの半導体関係の協力会社の一社でございます。5点ばかり質問させていただきます。

その1つは、前の経済新聞にも出ておりますけど県が無策反省、誘致に本腰というような、これは日本経済新聞に載っております。当然仙台への移行等はまだ皆さんご承知のとおりですから割愛させていただきます。

まずその中で私、一つ目は東京エレクトロンに課長クラスの人を常駐しておいたらどうかと。要するに半導体関係の情報を収集すると同時に、当然協力会社も何社もございまして、是非一つ東京エレクトロンとも打ち合わせしていただいて、管理職クラスの人を一名駐在していただくとありがたいなと。

私たちも、当然エレクトロンにも行きますので、そういう時に色々情報を提供したり、また県のほうに要請したり、いわゆる橋渡しとして一名常駐していただければありがたい。場合によったら二名、三名になることもあるかもしれませんが、まず東京エレクトロンに駐在をしていただけるかどうか、この辺を一つ検討していただきたい。

2点目は、全く違うお話をさせてもらいますけど、旧双葉町に農業大学がございましてけど、この農業大学というのをいろんな方に聞くけども、どこにあるんですかという人がおおかたですよ。

今、中国餃子の問題などを含めまして自給率39%、これを政府は45%に押し上げようとしています。その一貫として農業大学をいまま少し学長を含めてPRしていったらどうか。

要するにこれからはいち早く葦崎市として受給率45%に持っていくプロセスとして、やはり近くの農業大学を利用したい。それには職業安定所とタイアップして、と同時に田舎に行けば遊休地がいっぱいある、これを是非一つ農業大学含め本腰を入れていただきたい。

それから3つ目は、その上に立って、農業を株式会社に持っていったらどうか。その一つとして、東京でビルの4階建て、5階建てで、いわゆる水を使ったバイオテクノロジーで、きゅうりを作る、2階はトマト、3階はピーマン、色々ありますね。

農業を株式会社の考え方で葦崎を幾つかに分けて、そういうようなものは県がフォローすると同時にやっていったらどうかと。

それから4つ目でございますけど、これからは太陽電池、燃料電池。燃料電池はもう産学官で梨大を中心に今色々やっておりますけど、是非一つこれからは太陽電池の工場誘致に本腰を入れる。

ちょっと事例を申し上げます。私は宮城に行ってきました。東京の事務所を通じて宮城に行ってきました。その中で、二人分旅費プラス宿泊代をみます、2回はみます。その代わり仙台のどこに行きますか、2日間はうちで全部タクシーを使ってそれなりの所を案内させていただきます。それと同時に県庁に寄って下さい。県庁に知事がいた時には知事さ

んが必ずあいさつさせていただきますと。それからもう一つは、1週間以内ぐらいに必ず回答をさせていただきますと。暫定的な回答でもいいですけど、一応そういうようなお話を聞いて行ってきまして、全く事実です。

ただし私が県庁に行った時には知事さんがいませんでしたから、商工労働部長さんが知事がいまないので私があいさつさせていただきますというような、こういうような事例もございます。

是非一つ太陽電池という、これから大きな目玉があります。この太陽電池を是非、工場誘致の中に入れていただいて、それには先ほど村井さんという知事さんが48歳ですか、防衛大学を卒業して来ておりますけど、いずれにしましてもそういうようなことを一つ参考にさせていただいて、太陽電池の企業を是非一つ蕪崎に持ってきていただきたい。

ここに今県の方がおりますのでちょっと見て下さい。太陽電池の第1回目の展示会があります。それから水素燃料電池、これも4回目でございます。ですから太陽電池はもう今年が一番最初でございます。是非一つその太陽電池というものを本腰を入れていただきたい。これが4つ目でございます。

それから5つ目は、全くここに工場誘致をしている人たちは体験しているかと思えますけど、私が一つ事例を申し上げます。平成18年の8月に農振の除外を、いわゆる駐車場をお願いしました。そしたら何と2年掛かりました。

私の所で実際に駐車場で使ったのは、今年の2月になってからです。ついこの間です。2年掛かっています。この辺の、まあ色々あるかと思えます。農振除外は1年はできなくて1年半ぐらい掛かったようでございます。

特に私は蕪崎含めて、こういう会社から何か申請があった時には特例を設けるかどうか分かりませんが、半年ぐらいで是非一つ何とか先の見通しをお願いしたい。

行政は分かりませんが、建物を建てる、それには土地が一番最初の問題。それが1年も2年も掛かるようでしたら、全くじゃないけどこういう工業関係は日進月歩、明日はもう過去のものになるという可能性もあるような、こういう時代でございます。

それなりの現状の格好でいいですから、お答えいただければありがたい。

#### [ 知事 ]

東京エレクトロンへ県の職員を常駐ということは中々難しいかなという感じが、結局企業機密というのがあるんですよ。一般的にはやっぱり、県とか公共機関がそこにいるということについては一種監督されているようなもんを感じるもんだから、エレクトロン自身がどう思うかなということが一つあるのと、県庁の職員もエレクトロンの社員になっていくということになると、いわゆる一種の研修でやることになるんですね。まあ比較的若い職員を対象にして研修ということになるんですね。だから県の行政とエレクトロンの橋渡しということをやれるかどうかということはあるんですね。それより何より、まあそこにいて、さて仕事があるかどうか、一人の人間が行ってということなんですよ。まあそういうことは色々あると思います。

ただエレクトロンとは今まで県庁もあんまり付き合いもないし、ずいぶん前から例えば七里岩ラインの青坂がだめで職員の通勤に時間が掛かってしょうがないとか、まあ色々言っていたけど、ようやくやっているわけで、やっぱり企業のそういういろんなニーズと

いうものをもっと頻繁に把握をして、対応できるものはきちっと対応していかなければいかんということなんですよ。

だから今は、一生懸命県庁の職員が回り歩いているんな注文を取って、そして対応できるものはすぐ対応する、今の農転の話も何かあればすぐに対応するように、ワンストップサービスなんて言ってやっているわけなんです。

だから山梨でそういう事業をやっている方々で、工場を拡張するために農転、その他色々問題があるという時には産業立地室というところによってくれれば農転の問題も含めてすぐ対応するというような体制になっているんですよ、今はそういうふうにしてある。だからそれを言ってくれれば対応できると思います。

それから農業大学校は長坂にあるんですけども、これは今度大改革しましてね、今までは職業訓練校だったんですが、今度は学校教育法上の専門学校にするんです。

そして定員の数も特に、いわゆる途中で農業に入ってくる団塊の世代とか、そういう方々の農業を勉強するコースというのを定員の数を倍にしたんですよ。今まで20人だったけど40人。要するに途中で農業に参画してくる人たちの研修コースですね。あとは若い人ですね。高等学校を出た若い人をさらに2年間研修するという制度があるんだけど、途中で、ほかの仕事をやっている、そしてこれから農業をやりたいという人たちが研修を受けるコースというのは、かなりの数を増やすわけなんです。

そういう意味で農業大学校もずいぶんやり方を変えて、それがこの4月からスタートしていく。PRが足りんということは全くそのとおりですが、葦崎出身の横内君という、これは前の果樹振興課長をやっていた非常に有能な職員が今校長になってね、まあ一生懸命やっていますからね、期待をしているんですがね。まあこれはおっしゃるとおりだと思いますね。

それから株式会社による農業経営というのは本当にそのとおりで、農業工場づくりについてはさっきもちょっと話をしましたが、今度は明野の圃場整備の中に農業工場ができます。それについては県も奨励金を出すということにしたんですよ。

だからおっしゃるように5階建てのそういうものを造るということについては、もう奨励金が出ちゃう。通常の製造業と同じように奨励金が出るということにこの4月からするんですよ。だから大いにそれをやってもらいたい。

やっぱり農業というのも今までのやり方じゃ、家族型農業じゃだめなんで、やっぱり農業の外から製造業とかそういうことをやっておられる方が企業のノウハウとか、あるいは技術とか、それから経営のビジネスモデルみたいなものですね、そういうものを導入してこないとだめなんだと思いますね。

だからこれは県がやるというわけにもいかんもんだから、やっぱりこれは農業以外をやっている企業家で農業をやってみようという人は大いに意欲的に取り組んでももらいたいと思うわけですが。それに対してもやっぱり5億円10人以上という条件はあるんですが奨励金が出る。

さらに、農林漁業金融公庫は喜んで融資するんですよ、農林漁業金融公庫にとっては一番そういうものをやってもらいたくてしょうがないわけですよ。だからそういうのをやってくれるのであれば幾らでも融資の補助する、いろんな支援をする機会はあるんですよ、制度があるんです。

太陽電池については、まあ確かにそのとおりなんですけれども、これは私もこれ調べてみてね。というのは三井物産戦略研究所の所長をやっている人がいて、この人と話をしていたら、太陽電池なんかの工場をもってきたいじゃないかと話をしてくれたんですね。

ただ、太陽電池パネルというのは液晶の製造工程と非常に似ているんだそうです。だから大規模な工場用地にかなりの設備投資をして作っていくことになる。そうすると山梨の場合は土地とか、それから人の問題でばかどかい工場というのはできないんですよ。小さいけどきらりと、きらりと光るようなクリーンな産業というのが山梨の立地企業なんですよ。だから山梨で、いわゆる太陽電池パネルを製造するようなものはできにくいかもしれない。しかし太陽電池パネルの中には色々な部品もあるから、そういう部品を作るということはあるいはあるかもしれないと思いますね。

[参加者]

ここに今、もう現実に太陽電池の一部加工部品をやるということ、今から建物を今建てようとしている、まさにこの人が葦崎の第一号じゃないかと。

その中で京セラだとか富士電機だとか、三菱電機だとか、今シャープさんだけじゃないんですよ、もういっぱいあるんですよ。そういう会社を誘致に結び付けていってもらいたい。

[参加者]

私も装置メーカーじゃないんですけども、部品加工のほうなんですけども、先ほど知事が言われた液晶装置に似ている装置の作り方なんですけど、そこらのスリットバルブ関係を製造しておるものですから、まあ随分今も少しずつ増加しています。それから2、3年にかけて成長してきた、そういう関連に特化しています。

[知事]

まあだから太陽電池のパネルそのものを作るものというのはこれはでかい装置産業になると思うんです。

だけど御社のような、いろんな部品部分を作る企業というのは大いにあり得るわけで、そういう企業は大いに立地可能だと思いますよね。それは是非紹介してくれば、それはいいと思いますね。クリーンな産業だしね。イメージに合うだろうと思います。

まあだから農転のほうも、今度は駐車場を作るというのはどうですか。

[産業立地推進課長]

農振のことについては企業立地促進法というのが昨年6月11日に施行になりました。その中で、農転なんか役所の中でワンストップでいくようにということで、基本計画が2月1日に同意を受けたんです。

例えば葦崎の中でその基本計画に加入するべき地域として入れることによって、今まで個別に具体的な工場の計画とか、そういうものがないと農振から除外する仕組みはなかったんですけども、そういうものがなくても、集積地域としてそこを指定すれば、工場等



の具体的な計画がなくても農振のほうがスムーズにいく仕組みが作られています。

また個別にご相談していただければ、先ほどの2年ということはないような仕組みでお応えできるのかなと考えていますから、是非よろしくをお願いします。

[ 参加者 ]

関連でよろしいでしょうか。

企業誘致の問題で、やはりエレクトロンさん、大きな問題だったと思うんですけど、今おっしゃるように、やはり一つには企業の情報、要望というのがきちっと県のほうがつかんでいなかったというのが一番大きいと思います。ですから社員さんが県から常駐ということでないにしても、やはり大手の企業さんとの親密等はやっぱり知事さんはじめ、幹部の皆さん方が何か定期的に持つ機会を作られることを是非お願いしたいと思います。

それから宮城に行った理由として、東北大の存在が非常に大きかったことと、それからトップセールスが非常に成功したという、まあ知事さんもやっていたというわけですが、山梨の教育環境というのは人材を育てるという問題ではやはりまだ弱いかなど。私たちも人材を募集する際に非常にやはり技術屋さんの獲得に苦労しているんですけども、塩山の産業短期大学がもう少しうまくもっと充実できればいいなど。例えば具体的には高校との一貫教育で高専を持ってくるということは事実上難しいでしょうけれども、何とかそういったものを生かして山梨独特のそういう環境がつかれないかなという気がいたします。

たいがい甲府工業とか、県内の工業高校、まあ葦崎工業も含めて、ほとんどの方が今は進学されますよね。だからせっかく地元にある学校もまだちょっと定員割れをしている学科もあるようですし、もう一工夫必要じゃないでしょうか。その2点をお願いします。

[ 知事 ]

なるほど、おっしゃるとおりでね、産業短期大学をもっと活用しないといけない。一つにはもっと企業のニーズに合うようなカリキュラムにしないといけない。したがってそのカリキュラムの内容を見直したりして、そして工業高校から産業技術短期学校へということで、まあ言ってみれば国立高等専門学校と同じような仕組みにしてやっていったらどうだというようなことを色々考えているわけですね。

産業短大を大いに活用する、そういうことを考えているんですけども、さあどうしたらいいかという事があるんですね。何か具体的にありますが、こうしたらというような事が。

[ 参加者 ]

そういうのは企業から派遣されて、その学校で教えるという事はやっているんですか。

[ 商工総務課長 ]

今現在はやっていないんですけど、今そういうことも含めて工業系高校と産短大のカリキュラムの重複部分をなくして、時間数としては産短大というのは高専の4、5年制より

も多い時間帯を勉強している部分がありまして、それをまずつなげることによってより高度な技術者を産業界に供給することができるのではないかと考えております。

今おっしゃったような形の中で一番最初は高校の先生にも産業短期大学をみてもらう、生徒にも見てもらう。そして産業短期大学の先生にも工業高校なんかを見てもらうことによって理解を深めなければまずだめだということで、今準備会を作りました。

そこからもう一歩進めていくと、今度は製造現場というものと教育現場というものを乖離させてはいけないという中で、「クラフトマン21」というもので、教育委員会がやっている事業の中で物づくりを高校生に教えようというインターンシップみたいな授業をやっている部分があるんです。それをもうちょっと進めてそこで相互にという形ができないかという検討をしております。

産業界の皆様方のご意見を聞くと、自分たちの従業員をやってもいいよ、僕が学校に行ってもいいよ、その代わり引き受けもするよという形の中で、単なる工場見学でなくて、もう一歩進めたものをしていきたいという話し合いを現在進めているところでして、何とか成功させたいなと思っています。

[ 参加者 ]

すぐやって下さい。お願いします。

[ 参加者 ]

高専の話は可能性としたらばどうなんですか。

[ 知事 ]

高専を作るとなると色々研究したけど、まあ仮に今年から始めたとして、色々土地の手当、建物はもちろんだし、文部科学省に申請してというようなことで、申請が下りるのは5年ぐらい掛かるかもしれません。

それから5年制だから、子どもが外に出てくるのに10年掛かる。10年の間に社会が変わっちゃうから、やるのであれば工業高校にプラスして2年の専門学校をくっつけるほうが話は早いというような感じはするんですよ。

[ 参加者 ]

関連して、実は「クラフトマン21」を企画する前に、高校の先生たちと足掛け3年ぐらいずっと話をしてきているんですね。

その中で今高校の定員の問題があります。総合学科など新設するしないという話の中で、現状はその年度の募集定員をどうするかは中学3年生の一次志望を聞いた段階で、その数字を見て検討に入るといったことなんですね。

中学校の先生方がその前に子どもたちの進路指導をどこまでやっているかということ、今非常に難しく、ほとんど一次志望の段階では指導が入っていないことがあると。だから一次で出てきた結果と、二次になったら全くこれ変わってしまう。つまり毎年毎年その定員をどうするかということが毎年変わる可能性があるわけですね。

要は人材不足で、非常に優秀な人が欲しいんだけど、実際に中堅で動いてもらう人、工業高校卒業の若い人たちとか欲しいわけですが、どうしても中学の3年のその時期になって、さあ工業高校は希望者が少ないからこれだけだよとなってしまうと、総合学科が城西などもできましたけど、あそこは電機を志望している子が学年で多分10人くらいしかいないと言うんですね。機山の時には多分60人から80人くらいいたんじゃないでしょうか。結局そういう商業系のものと一緒になると、どうしても子どもたちは楽なほうへじゃないですけど、どうしてもそっちに流れちゃうんですね。

そうするとむしろ山梨を製造業、物づくり立県というような位置付けで製造業を何とかということであれば、県としてどういうふうに人を育てていくかという、ベースになるモデルデザインみたいなものがある、それに基づいてやっぱりじゃあこういう勉強ができる子たちをこのくらいにしていこうかということがないと、どうしても後手に回るかなと思います。

今、高校の先生と話をして、中学生に何とか山梨の企業の魅力を伝えよう、それを通して工業高校に引っ張ってこよう、場合によると進学してしまっても、結果的に東京の大学を出てから山梨に戻ってこようという気持ちになってくれる子がいればいいかなというものもあるんです。

そしてもう少し進めていくと中学校の技術系の先生方が、小学校の物づくり体験、幼稚園、保育園のうちからの農業体験をさせなければいけないなんて言っていましたから、そういう物づくりの面白さというのか、楽しさというのか、そういう魅力みたいなものを早い時期から教育の中に取り入れていって体験をさせて、それできちっと勉強する意欲を育てていって、結果的に山梨の産業のサポートをしてくれる、バックアップしてくれるというのか、そういう道しるべみたいなものが必要なんじゃないかなという気がとてもしているものですから、また考えていただければと思います。

各高校の先生、中学の先生、小学校の先生は縦割りになっていますので、お互いに交流がないです。工業高校の先生と中学の技術科の先生は多分ほとんど情報交換をしていないと思うんですね。ですからそういうことも含めてうまいこと企業の人間を含めてコミュニケーションが取れたらいいなというふうに思うんですけれども。

#### [ 知事 ]

なるほどね。そのところは非常に大事なところですよ。小学校、中学校の早い時期からそういうやっぱり物づくり体験みたいなものをさせたり、そういう物づくりというものに関心を持たせるということが非常に大事で、これはやはり小学校、中学校のカリキュラムとしてやっていかなきゃいかんと。

それから今韮崎出身の大村先生が山梨科学アカデミーというのをやっているけれども、まあこれは自分は要するに将来の子どもたちを育てるためにこれをやっているんだと。だから一番大事にしているのは、やっぱり小学校、中学校、高等学校へ大学の先生とか、そういう人を派遣して、科学というものの楽しさみたいなものを是非知らせたいたんだと、こういうことを盛んに言っておられて、その割には余り十分我々のほうがそれを活用していないもんですから、もっとそういう方向に科学アカデミーを使っていこうかと思っていますけどもね。これは非常に大事なところですね。

そうするとかえって総合学科制度になったがために、そういう工業系とか、そういうものの教育が少し手薄になったということだね。

[ 参加者 ]

そうですね結果的には非常に薄くなっていると思うんです。

[ 知事 ]

それから特に蕪崎の皆さんには蕪崎工業高校を育ててもらいたいんですね。地域の物づくりの学校の拠点として、まあ皆さんはすでにいろんな形で係っておられると思いますけれども、あれはいい学校なんですよ、色々ね、いい学校だと思いますね。

蕪崎にあるということが、産業都市である蕪崎にあるということが非常に意味があってですね、是非あれをしっかりといい学校に育ててもらいたいと思いますね。

新聞に出ていて読まれた方もいると思うけども、岡山県というのは工業高校の卒業生の比率がうんと高いんですね。全国平均だと、まあいわゆる高校生のうち工業高校の生徒というのは1割、10何パーセントだけでも、岡山県は30何パーセントあるんだってね。やっぱり長年県がそういうやり方をしているということでしょうね。だから行政のやり方によってそういうふうになっていくんですよ。それは大事なことだと思いますね。

[ 商工総務課長 ]

私ども去年10月から3回にわたって技術系人材の確保育成検討会議というのをやったんです。

その中のご意見の中に、今おっしゃった小さい頃からの物づくりが結構出てきたんで、県の教育委員会のほうでまず手始めに副読本として高校生を対象とした副読本で『山梨に生きる』という、これは仮題だと思うんですけど、郷土を愛したり、あるいは物づくりを通しての職業教育というものをテーマにした副読本を作ろうという形を検討しております。

そしてまた、それを将来にわたっては中学校におろして、小学校におろしてという形の中で物づくりの大切さというものを子どもたちに教えていきたいというようなことを教育委員会のほうでは申ししていました。

[ 参加者 ]

産業短期大学の件ですけども、おっしゃるように、より専門化していくには、観光学科と情報が入っていることで、ちょっと学校の存在そのものがいまいな、もうちょっとコンセプトをはっきりしたほうがいいと思います。

だから極論を言えば宝石専門学校と一緒に観光だけしちゃうとか、そのぐらいに技術力を上昇させる専門学校というふうに位置付けるほうが・・・。

観光の人達には申し訳ないんですけども・・・。

[ 知事 ]

しかし観光が意外と志望率が高いんです。

[ 参加者 ]

卒業生がどうも観光にいていないようですね。

[ 知事 ]

なるほどね、そうですか。そのとおりですよ。物づくりだけじゃないんですよ。それは確かにそのとおりだね。

[ 参加者 ]

私はカーボン、炭素繊維の製造をやっているんですが、まだ開業、起業してまだ今年で3年目、今年の10月でやっと丸3年になるんです。一応ベンチャー企業として代表のつもりで今日は出席させていただきました。

2年ちょっと前に起業、開業したわけなんですけど、その際にももちろんお金の面だったり、いろんな事もあって県の施設なり、いろんなところを回らせてもらって、こうやって起業にあたり何か支援制度とかないかとか、そういったことを色々聞きに歩いたんですが、実際にすごく間口が狭くて厳しいものがありました。

新しく若い人たちが夢を持って起業しようとするのに、中々うまくできない人が多分多いんじゃないかなというのがありまして、アメリカンドリームじゃないですけど、山梨ドリームというような形で、もうちょっと新しく色々なものを作りたいという物づくりの若い人たちが表舞台に立てれるような環境づくりを是非していただきたいなという思いがあります。

[ 知事 ]

県なんかでそういうベンチャー支援となれば、例えば工業技術センターにインキュベーションがありますね、そこにしばらくいて、色々自分も新しく立ち上げるというようなことは、あそこを使えるとか、色々な相談員がいて相談に応じてやれるとか、それから資金についても山梨ベンチャーファンドというのがあってですね、ベンチャーには貸しますとかありますよね。だめですか。

[ 参加者 ]

実際に今現状は産業支援機構さんにしろ、工業技術センターにしろすごくよくしてもらっていて、かなりバックアップしていただいているんですよ。ただ、最初に一人で行った時の扱い・・・。

[ 知事 ]

扱いが・・・冷たいわけですか。(笑い)

[ 参加者 ]

カウンターごしで話をするというぐらいのレベルなんですよ。は一、じゃあがんばって下さいという程度で、お金の話にも持っていけない。県内で大きいこちらにいらっしゃるような企業の人たちと一緒にいくと、まあコーヒーが出されて色々話が・・(笑い)。

ですので私の場合はカーボンというちょっと珍しい素材ではあったんで、今飛行機とか色々な分野で使われてきている炭素繊維なんですけど、今後確実に伸びると思って始めたんですよ。

それでカーボンという知識はもちろん余りまだ認知度が少ないというのが当然ありましたし、サラリーマン家庭の出なんで余り別に太いパイプも無いというのがあったのが正直なところなんです。

そういったところでそういった人たちが、第二の本多宗一郎を目指してみたいな形で、世界のホンダになるんだという、僕もそう思いながら始めてやっと3年目になったんです。

そういう人たちをもうちょっと受け入れるというか、もうちょっと支援していただけるような制度があれば、山梨の産業の発展にもつながると思いますし、物づくりという工業の発展にもつながると思います。

[ 知事 ]

まったくそのとおりですね。本当に何か創業をしようという意欲がある若い人が、山梨に行くとか創業しやすいから山梨に行ってやろうという、そのぐらいになればいいんですね。そういうふうになるにはどうしたらいいかということですよ。

[ 工業振興課長 ]

今年知事さんと相談させていただきながら、「山梨みらいファンド」というのを考えております。

これは創業に特化して、例えば登記とか司法書士だとか、あるいはいわゆる事務所のリースだとか、例えばファックス、コピーとか、そういうお金の一部を助成するような制度を今考えています。

今おっしゃっていたようなインキュベーションとか、また産業支援機構のアドバイザーとか、そういうものと組み合わせて、相談に行かれた時に、じゃあこのファンドを使ったらどうでしょうか、というようなことを作っている最中なんですね。

[ 参加者 ]

これから目指す人がこれからたくさん出てくると思うんでね、是非山梨ドリームというような形で是非発展していけばいいなと思いますので、よろしくお願いします。

[ 産業立地推進課長 ]

当時のアドバイスが非常に冷たいという件ですが、先ほどの農振を含めて、何でもお引き受けして我々にできることはすべて紹介するシステムが今作られていますから、当時と今かなり違っているということ、是非お仲間にもお話を広めていただければと思います。

[参加者]

工業会の会長をやらせていただいています。

私の会社は調味料とか、そういうものを作っている会社なものですから、県から食品の関係で指導を受けています。

今まで県から直接いらして、職員の対応も余り上からどうのこうのというのではなくて、割と親密にやらせていただいています。その辺に関して県の指導は、かなり対応がよくなってきているので、県のほうに抗議がいくということは今のところ私たちの業界ではないんですけど、まあまた工業会で何かありましたらよろしくお願ひしたいと思います。

[知事]

分かりました。やっぱり普通の県民から見ると役所というのはそれだけで敷居が高いんですよね、役人はそう思っなくてね。

そういうことを公務員のほうが分からなければいかんですよね。同じ目線に立つということですよ。大事なことですね。

[参加者]

今までお話がありましたが、補助金につきまして、今年産業立地室にお願いをしております。

農転につきましては、うちも実際1年以上かかってようやく駐車場が今なんとか工事ができるような状況ですので、先程から話がありましたような形で何とかお願ひしたいというのが一つございます。

あと人材につきましては、10人以上というのはそんなに大きいはずじゃないと思っていますけども人がいない。

設計ができる、できれば四年制の大学を出たといひますと、県内ですと山梨大学になるんですけど、大学院に半分以上、そして大学院に行った場合にはもうほとんど全国展開です。

それで県内に残る4年生で出てくる学生といったらほんの数名で、それがうちみたいな会社になるとなかなか厳しいものがあります。

できましたら少しでも、もうここ2年ぐらひは大学卒業のメンバーが中々採れないような状況が続いていますので、県内に学生が残れるような環境づくり、補助金含めてですね、そういう体制をとってもらえればと私は考えています。

[知事]

そうですね。まあ山梨県というのは大学はたくさんあるんですけども、本当に工業系の大学が山梨大学しかないんですよ。

あと学院大学、都留文大、県立大学もあつたりしますけれども、工業系の大学がなく、帝京科学大学、あれも情報科学系なんで、物づくりというんじゃないんですよ。

しかし山梨の若者で東京の工業系の大学に進学する人間というのは非常に大勢いるわけ

なので、例えば蕪崎高校の名簿を見れば分かるわけですから、そういう人たちを例えば4年終わってさあ就職という時には山梨の企業に就職するということを、Uターンですね、これを積極的にやっていかないといかんということを今考えているんですが、それはどうでしたっけね。

[ 商工総務課長 ]

今、山梨県出身者で工業系大学に行っている学生さんたちに山梨県に就職情報を流したりすることを考えております。

3年、4年経ってからつかまえに行くのは中々大変なので、卒業した時点から、今携帯電話にメールアドレスを持っていらっしゃるので、それを活用するような格好で月1回ぐらい山梨県の情報みたいなものをメールで送る。そして山梨県と行っている人たちの結び付きをつなげておくというような形を取って、最終的には就職へ結び付けていくようなシステムとしていきます。

そして東京事務所に、もっと積極的な意味で、そういう出ている学生さん、また山梨に来てもいいという学生さんたちの就職を支援するような、仮称ですけど「UIターンの就職支援室」を東京事務所内に設置して、積極的に出た人を戻そうという事業を進めることとしており、4月から実施します。

[ 産業立地推進課長 ]

さらに、山梨出身で東京都内の大学に入って、いよいよ卒業期を迎えている学生をポイントで東京事務所に常駐した職員がそこを巡って、是非山梨に帰って就職していただく、要は直接セールスをする、そういう仕組みです。

[ 商工総務課長 ]

両面の作戦でいこうと今していきます。

足で稼がないとちょっとだめな部分がありますので、ご理解をお願いします。

[ 知事 ]

まあそんなことで何とか御社も確保できるように努力しなければいかんと思って、まあ言うていただければ、じゃあそういうもんで一つ御社が大いにPRと一緒にやりましょうと、県とですね、というようなことはあると思いますから。

[ 参加者 ]

先ほど言われたように許認可の問題は建築確認等々がございまして、民間の設備投資に非常に問題があるということで、これはもう山梨県に行ったら、先ほど知事が言われたように、早く許認可が下りるんで製造も早くできるようになったと、そんなシステムができればありがたいなと思っています。

それともう一つ、できれば県の職員の担当を決めて市場調査をやる。営業じゃないんですけど、そういった部門を作られたらいかがですか。



例えば県内企業は何を売っているかとか、そういったことを聞いて市場調査を含めて、そういう分野を作られたらいいかなと思うんです。

[ 工業振興課長 ]

今、産業支援機構で受けていただいて、かなりの部分は企業を回って情報とか、どういうものを行っている、今どういうふうに状況が動いているという情報を収集していただいて、そういうものを私どもフィードバックしていただいて今の事業に反映させていただいているという状況なんですよ。

産業支援機構には、下請けの斡旋とか、そういうものまで全部やってもらっているんですよ。

[ 参加者 ]

先ほども言われたように情報も発信できるといいですよ。

例えば補助金とか、そういったものを企業側のほうが知りませんので、そういったものをアピールするとか、逆に言うとかで困っているのかとかですね、そういうちょっと目線を変えて企業から聞いてあげる、それを反映するというようなシステムですね。より効果的にできるんじゃないかと思います。

[ 参加者 ]

県庁の毎月一日に出す新聞の「ふれあい」に、県のホームページとか、今言った産業支援機構のホームページの見方とか、私たち風林火山ビジネスネットも県庁のホームページでやっているの、県のホームページのリンクの張り方とか、いうのを載せるとか、PRの仕方が悪いんですよ。

[ 商工総務課長 ]

まさにPRが下手じゃないかということをよく言われてるというのはありまして。

インターネットを使うやり方で、商工関係団体というので支援機構もあれば、連合会、商工会、中央会、いろんな団体を関連ネットでつなぐような形が一応してあるんです。

県庁のホームページから入ってもらって商工労働部へ来て、そこから関連でというような流れはある程度できるんですが、そういうことのPRの仕方が下手なのかもしれないというのは反省点で、「施策的にはそんなことをいっぱいやっています」というと、「あっ知らなかったよ」というお話を伺うことのほうが多いです。

その宣伝不足、PR不足というのは何かうまい方法を考えなきゃいけないとは思っています。

[ 知事 ]

全くですね。

[ 参加者 ]

東京の観光大使にちょっと意見を聞いたところによると、観光大使として何をすれば喜んでいただけるのか、その辺をもうちょっと具現化していただければPRしやすいという意見もありました。

[ 知事 ]

確かにそうかもしれませんね。それぞれみんな何かしてやりたいという思いは持っているんですよ。

名刺は渡して、あとは時々山梨のいろんな現状についての資料を送ったりしているわけですが、具体的にじゃあどういふことをしたらいいんだというのが分からんと。

だから今度はそういうことをきちっと、どういふことをお願いしたいのか、例えば企業立地についての情報をくれとか、あるいは観光についてこうしたらいいというようなアイデアをくれとか、何でも山梨の役に立つような情報があればどんどん下さいと。

しかもそれだけじゃだめなもんだから、あらかじめファックス用紙を作って送っておいて、もうもらったら何かファックスに書かなきゃいられんようにして、何でもかんでも書いてもらおうと、こういうふうにすれば何かどうか出てきますよね。そういうふうな工夫をしてくれということはあるんですがね。

確かにちょっとこの1年間は資料を送っただけで、名刺を渡っただけで、あと何をしたらいいか分からないと、こういうことで不満があることは確かなんですよ。

それは本当にそのとおりですね。山梨大使の活用ね。

[ 参加者 ]

今、我々自動車部品とかカメラのケースとか、そうしたアルミ、マグネシウムとかを作っているんですけど、特にマグネシウムという素材が注目されておりまして、カーメーカーさんも興味を持たれて共同開発でそんな事やっているんですけど、そういった時に我々は甲府盆地の中でいるんなことをやりたいんだけど、そこで我々のアウトソースするところが中々ないという。

例えば加工、精密とか、そういったことが我々困っておりまして、3分の2ぐらいは県外に出ちゃう。

メイド・イン甲府でやろうよと、今みんな声を掛けてやっているんですけど中々そこがうまくいかないというのと。

もう一つ、やっぱり若い人を山梨大学とかそういう人材を欲しい。

日本の中でも今トップグループでマグネシウムやって、また設備投資もしておりますし、そこをもっと自分たちは広げていきたいんだけど人の制約、それからインフラというんですかね、そういった制約があるということでして。

その辺を知事に我々と一緒にやっていただけたら、自分たちが産業としてここに残っていける、サポートを是非お願いしたい。まあ要望でございます。

[ 知事 ]

県によって下請け中小企業みたいなものは相当しっかり分厚いところと、そうでないところとあったりして、そういう中では山梨も割とあるほうだとは言われているんですが、それでもやっぱりそういうアウトソースする下請け中小企業的なものはないんですか。

[ 参加者 ]

割と仕上げとかいろんなものがあるんですけど、もう少し精密やったりとかというところでも県外のほうに行ってしまうんです。もちろん中でもやっていますが、そこをとにかく物が大きいですから、なるべくというか、まあ絶対に中でやりたい。

[ 知事 ]

そうですね。それから山梨大学から中々人が採れないですか。

[ 参加者 ]

そうですね。

[ 知事 ]

何かそういう点で人の確保の点で応援メニューってありますか。

[ 商工総務課長 ]

私どものほうとしても、山梨大学さんのほうへ地域枠の創設というような検討を今工学部でしていただいております。

産業界と県と一緒に、そのバックアップ体制を取っていききたいというような形で県のほうでも考えております。

もう一つは、インターンシップというものの活用というのは、その会社を知っていただくためには非常に重要なことではないのかなと思っております。そのインターンシップのやり取りというのが企業と大学との間がうまく行かない部分があるのかもしれないので、それをうまくサポートするような組織みたいなものも今後作っていかないと、その辺がうまくいかないのかなというような感じもしています。

そこら辺については研究課題として今から進めていかなければならないのかなという感じで思っているところです。

[ 参加者 ]

私どもの企業というのは農業関係の資材を作るのと自動車部品の二つに分かれてやっているんです。

皆さんのお話を聞いても農業関係にとおっしゃっていますが、それに対して色々、サポートもできるかなと思っているんです。

農業関係に関しては西多摩地区が一番近いし盛んでして、ビニールハウスなんかも私どもも作らせていただいているんですけども、一部東京のほうに出ております。

当社は山梨県にたくさんお客さんがおりますけども、最近やはり全体的にちょっと低調になってきたかなと思うんです。ただ、今世の中を見ますと食の安全、安心という部分で、本当に政府などに考えていただくと、39から45の自給率が本当にヨーロッパ並みの70、80そのくらいになっていくんじゃないかと思います。

それともう一つ車の部品関係をやっております、去年ちょっと大きなものを立ち上げたものですから、相当数途中で採用しなければならなくて大変でしたけれども、何とか人は集まったんです。

車というのは、特にトラックなんかは20年、30年前の車を使っているお客さんがたくさんいらっしゃいますから、そうすると補給の部品を作るという非常に大きな使命がありますが、この辺が穴ということで、昨年、うちのことを東北などのほうの知事さんに話したら即反応があって、ぼんぼんアボ取りの電話が入って、非常にそういう反応が敏感だなと思ったんですね。

山梨県は逆に親会社に近い所だから、もっとこの辺のところまでですね、おい、どうだという話になっていくと向こうも動くんじゃないかと思います。

私も、そういう土地のことがあればこんな所が空いているよとか、建物があるよというような話は一生懸命しているんです。そういう仲間が来てくれれば私どもの会社と一緒に大きくなるかなということでやっています。

ちょっと煙は出るかもしれないかもしれませんが、やっぱり鋳工業が基礎ですから、よくなると相当遅れてしまうかなということがありますので、そういうのに目を向けていただいて、両方のいろんな橋渡しをしていただければありがたいなと思います。

[ 知事 ]

いや、全くそのとおりです。

私が言っているんですけど、その西多摩地区に企業が5千軒あるんだそうですけれども、これにアプローチしようじゃないかと。やっぱり近いですからね。

例えば、つい去年も、圏央道が中央道にドッキングしたら上野原の上野原東部工業団地が10区画ぐらいぱっと売れちゃうわけですよ。そしてみんな大体来るのはあの辺の人は来るんですよ、近いですからね。

だからやっぱり西多摩という主要な企業集積を近くに持っているわけだから、あそこにアプローチするのが一番早いんですよ。それは本当に大事なことだと思いますね。

[ 参加者 ]

県の工業技術センターなどを使うんですけど、零細企業なんで中々研究というのはついていけないんですけど。昔に比べると段々工業技術センターの人材が少なくなってきて、この辺ももっと充実していただきたいと思います。

[ 参加者 ]

私、ちょっと古いベンチャーで、もう20年程前からやっているんですけども、LSI

の開発設計をやっています。

県に対する要望というのは特にはないんですけども、昔から考えると、ベンチャーに対する支援というのはかなり手厚くなったなという印象があります。

産業支援機構さんからもいろんな情報を私どもいただいて、展示会とか研修会とか出させてもらったり色々しております。お陰様でやっとベースができてきたかなというところに来てるんです。

[ 知事 ]

LSIの設計をやっておられるんですね。おそらく非常に大きいものですから、ある部分を担当しておやりになるんでしょうけども。

[ 参加者 ]

私ども論理回路の設計というところだけに特化しています。

先ほど許認可の話がありましたけども、今、公共団体、お金がないというところで人員の削減とか、色々あるんだと思うんですけども、許認可とかというのは一時小泉さんがおっしゃったようになるべく少なくする、自由競争という、そういう流れじゃないかなと思うんですよね。なるべく許認可というのは手放して、もう自由にさせる。産業界を自由にさせるというほうがかえって産業活性化に向かうんじゃないかなと。

側面的な支援というのは色々やっていただきたいんですが、あと、山梨県はこういう方向で行くんだという方向を決めるということに専念していただけたらいいんじゃないかと思うんですけどね。

[ 知事 ]

分かりました。特に農地関係の規制というのはきついんですよね。これが県が緩和しようと思ってもできないんですね、関東農政局なんかあったりしましてね。

基本的にはもうそれは国の農水省がすばっと簡素化するか何かしなければだめなんですね。

だけどやっぱり一方で、農地は守らなきゃいかんという大義名分もありますからね。規制が中々軽くないですよ。

[ 司会 ]

それでは最後に感想も含めて知事からあいさつをお願いします。

[ 知事 ]

ありがとうございました。大変に今日は実りの多い会合で本当に勉強になりました。

大変貴重なお話を、それぞれお仕事を通じて感じられたこと、悩んでおられることお教えをいただいて、私だけではなくて、ここに来ている課長さんたちも大変に参考になったというふうに思います。

できるだけ皆様のご意見を生かすように、改善をするように努力をしていきたいとい

うふうに思っております、何といたって皆さん方が山梨の宝であり、葎崎の金の卵を産む鶏なわけですから、やっぱり物づくりというものを大事にしていかなきゃいかんというふうに思っておりますから、そういう姿勢でこれからも県政を進めていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

まあ敷居が高いですけど、見てのとおり敷居が高いわけじゃない(笑ひ)。役人というのはどうしても言葉がつっけんどんになるからね、何となく扱ひにくい、皆さん敷居が高い感じがあるけど決してそんなことはなくて、是非皆さんのお役に立ちたいという思ひで前向きに取り組んでいる皆さんばかりですから、色々とまた使ってやってもらいたいというふうに思ひます。今日は皆さんありがとうございました。

(拍手)